

ロシアにおける社会主義建設のステップ (18-9の続き)

いまロシアで政府党となっているボリシェヴィキ党の発展は、われわれの際会している、そして現在の政局の特色をなしている歴史的転換が、どういうものであるかを、とくにはっきりしめしている。この転換は、ソヴェト権力の新しい方向決定を、すなわち新しい任務の新しい提起を、要求しているのである。

将来のあらゆる党の第一の任務は、大多数の人民に自分の綱領や戦術の正しさを納得させることである。この任務は、ツァーリズムのもとでも、またチェルノフおよびツェレテリ一派がケレンスキーおよびキシキン一派と協調していた時代にも、首位にあった。いまではこの任務は、もちろん、まだけっして完遂されたわけではないが（そしてまた徹底的に完遂されうるということは、けっしてありえないのだが）、大体において解決されている。なぜなら、ロシアの大多数の労働者と農民は、モスクワでの最近のソヴェト大会が議論の余地なくしめたように、あきらかにボリシェヴィキのがわにたっているからである。

わが党の第二の任務は、政治権力を獲得して、搾取者の反抗を弾圧することであった。この任務もけっして最後まで完遂されたわけではないし、またその任務を無視することもできない。なぜなら、一方では君主主義者とカデットが、他方では彼らの受売人であり追従者であるメンシェヴィキとエス・エル右派とが、ソヴェト権力打倒のために連合しようと、依然として企てているからである。しかし、搾取者の反抗を弾圧するというこの任務は、1917年10月25日から（ほぼ）1918年2月までに、あるいはボガエフスキーの降伏までの時期に、大体においてすでに解決された。

いまや当面の任務として、しかも現在の時機の特色をなす任務として、第三の任務が、すなわちロシアの**管理**を組織するという任務が、日程にのぼってきている。いうまでもなく、この任務は1917年10月25日のその翌日からわれわれが提起し解決してきたのであったが、しかしいままで、搾取者の反抗がまだ公然たる内戦という形態をとっていたあいだは、管理という任務は**主要な中心的な任務とはなりえなかった**のである。

ところがいまは、それがこういうものとなった。われわれボリシェヴィキ党は、ロシアを**説得した**。われわれは貧乏人のために金持の手から、勤労者のために搾取者の手から、ロシアを**たたかいた**。いまは、われわれはロシアを**管理**しなければならない。そして現在の時機のいっさいの特色、いっさいの困難は、人民を説得し搾取者を軍事的に弾圧するという主要な任務から**管理**という主要な任務への**移行の特殊性**を、理解することである。

世界史上はじめて、社会主義政党は、権力の獲得と搾取者の弾圧という事業を、大体において完了することができ、**管理**という任務に**直接とりかか**ることができるようになった。われわれは、社会主義的変革のこのもっとも困難な（またもっともやりがいのある）任務をやりとげるにふさわしいものであることをしめさなければならない。管理を首尾よくやっていくためには、説得する手腕のほかに、内戦に勝利する手腕のほかに、**実践的に組織する**手腕が必要であることを、よく考えなければならない。これはもっとも困難な任務である。なぜなら、幾千万という人々の生活のもっとも深い経済的基礎を新しく組織するということが、問題なのだからである。しかもこれは、もっともやりがいのある任務である。なぜなら、この任務が解決された（大体において）**のち**にはじめて、ロシアはただソヴェ

ト共和国になったというだけでなく、社会主義共和国になったともいうことができるからである。

現在の一般的スローガン

以上に概観した客観的情勢は、きわめて苛酷なしかも不安定な講和、苦しきわまりない崩壊・失業・飢餓によって作りだされたものであるが、これらは、戦争とブルジョアジー（ケレンスキーと彼を支持したメンシェヴィキおよびエス・エル右派に代表される）の支配とが、われわれに遺産としてのこしたものである。すべてこういうことは広範な勤労大衆の極度の疲労や力の涸渇さえ、ひきおこさないではおこななかった。大衆はいくらかの休息を切に要求しており、また要求しないわけにはいかない。そこで日程にのぼってくるのが、戦争とブルジョアジーの勝手なふるまいによって破壊された生産力の復興であり、戦争により、敗戦により、ブルジョアジーの投機により、また打倒された搾取者の権力を復活しようとする彼らのたくらみによってうけた傷をいやすことであり、国を経済的に高揚させることであり、基礎的な秩序をしっかりとまもることである。逆説的に見えるかもしれないが、実際に、前述の客観的条件からして、つぎのことはまったく疑いない。すなわち、現在の時機にソヴェト権力が社会主義へのロシアの移行を確実なものとするができるのは、社会生活を維持するという、ほかならぬこれらのきわめて基礎的な、もっとも基礎的な任務を、たとえブルジョアジー、メンシェヴィキ、エス・エル右派の敵対行為があっても、実際に解決するばあいだけである。現在、これらのもっとも基礎的な任務を実践的に解決することと、社会主義への第一歩の組織上の困難を克服することとは、現在の情勢の具体的な特殊事情のために、またソヴェト権力が存在して土地社会化や労働者統制やその他の法律を公布しているいまでは、一つの楯の両面となっているのである。

金銭勘定を正確に誠実にせよ、節約して経営をおこなえ、怠けるな、盗みをするな、労働規律を厳重にまもれ——ほかならぬこういうスローガンは、かつてブルジョアジーがこういう言葉で搾取階級としての自分の支配をおおいかくしていた時代には、革命的労働者から正当にも一笑に付されていた。しかしブルジョアジーが打倒された現在では、現時機の当面の主要なスローガンとなりつつあるのである。そして一方では、勤労大衆がこれらのスローガンを実行することは、帝国主義戦争と帝国主義的略奪者たち（ケレンスキーを頭目とする）によって半死半生の状態にさいなまれたこの国をすくうただ一つの条件であるが、また他方では、ソヴェト権力が**自分の**方法によって、**自分の**法律にもとづいてこれらのスローガンを実行することは、社会主義の最後の勝利にとって必要なことであり、それでまた**十分**なのである。ところが、こんなに「陳腐な」、「月なみな」スローガンを前面にもちだすことを軽蔑する人は、こういうことが理解できないのである。わずか一年まえにツァーリズムを打倒し、半年たらずまえにケレンスキーから解放されたばかりの小農民的な国では、当然のことながら、長期にわたる反動的などの戦争にもつきものの残忍な行いや野蛮なふるまいによってつよめられた、自然発生的な無政府主義がすくなくならずのこっており、またやけ気分や八つ当たり気分が、すくなくならずかもしだされた。なおそのうえに、ブルジョアジーの従僕（メンシェヴィキ、エス・エル右派その他）の挑発政策をくわえれば、大衆の気分をまったく一変させて、彼らを正しい、根気づよい、規律ある労働にうつらせるためには、すぐれた、もっとも自覚ある労働者や農民の、どんなに長期にわたる不屈の努力が必要であるかは、まったく明らかとなる。貧民（プロレタリアと半プロ

ロレタリア) 大衆がこのような移行を実現してこそはじめて、ブルジョアジーにたいする勝利、とくにもっとも頑強で数多い農民ブルジョアジーにたいする勝利を、達成できるのである。

ブルジョアジーとの闘争の新しい段階

わが国では、ブルジョアジーはうち負かされた。しかし彼らはまだ、根絶されていないし、絶滅されていないし、また徹底的にうちくだかれていない。したがって、ブルジョアジーにたいする新たな、いっそう高度な闘争形態が、すなわち、資本家をさらに収奪するというもっとも単純な任務から、ブルジョアジーが存在することもできなければ、ふたたび発生することもできないような条件をつくり出すという、はるかに複雑で困難な任務にうつることが、日程にのぼってくる。この任務がはるかに高度なものであるということ、そしてこの任務を解決しないうちは、まだ社会主義もありえないということは、明らかである。

西ヨーロッパの革命を基準にとってみれば、われわれはいま、およそ 1793 年と 1871 年に達した水準にある。われわれはこの水準までのぼったし、そしてある点では、疑いもなく、若干それ以上にすすんだということ、すなわち、いっそう高度な型の国家であるソヴェト権力をロシア全土にわたって布告し、うちたてたということ、——われわれは、それを誇りとする正当な権利をもっている。しかしわれわれは、けっしてこの達成された成果に満足していることはできない。なぜなら、われわれは社会主義への移行をやっとはじめたばかりであり、この点で、決定的なことをまだなにも実現していないからである。

決定的なことというのは、物資の生産と分配とのもっとも厳格な全人民的な記帳と統制とを組織することである。ところが、われわれがブルジョアジーからとりあげた企業や経済部門や経済部面では、記帳と統制とが、まだやりとげられていない。だがこれをしなくては、社会主義を実施する第二の、同じく肝要な物質的条件、つまり、全人民的な規模で労働生産性をたかめるということは、問題となりえないのである。

だから、資本家にたいする攻撃をつづけるという単純な定式によって、現時機の任務を規定することはできないだろう。疑いもなくわれわれは、資本にまだとどめを刺していないし、またこの敵にたいする勤労者の攻撃は無条件的につづけなければならない。しかし、それにもかかわらず、このような規定では、不正確であり、具体的でなく、現時機の**特色**が考慮されていない、というべきであろう。すなわち、今後の攻撃を成功させるために**いまは攻撃を「中止」**しなければならないのである。

このことは、資本にたいする戦争におけるわれわれの状態を、勝利した軍隊の状態と比較すると、明らかにすることができる。たとえば、敵の領土の半分なり三分の二なりをうばった勝利した軍隊も、兵力を結集し、武器弾薬を増加し、連絡線を修理し補強し、新しい倉庫をたて、新手の予備軍をつれてくる、などするためには、攻撃を中止しないわけにはいかない。こうした条件のもとで戦勝軍が攻撃を中止することは、敵ののこりの領土をたたかいとるためにこそ、すなわち完全な勝利のためにこそ、必要なのである。現在の時機に客観的情勢がわれわれに命じている、資本にたいする攻撃「中止」とは、まさにこういうことなのであるが、これがわからないものは、現在の政局をなに一つ理解できなかったものである。

もちろん、資本にたいする攻撃「中止」とは、括弧づきでだけ、つまり比喩的にだけ、

言うことができる。普通の戦争では、攻撃中止の総命令をだすことができ、実際に前進を停止することができる。だが資本にたいする戦争では、前進を停止してはならない。そしてわれわれが資本のこれ以上の収奪を断念するなどということは、まったく問題になりえない。問題は、われわれの経済的および政治的活動の**重心**を変えるということである。これまでは収奪者を直接に収奪する措置が**首位**にあった。ところがいまは、すでに資本家が収奪された経営で、そしてまたその他のすべての経営で、記帳と統制を組織することが、**首位**にあるようになったのである。

もしいまわれわれが資本の収奪を、従来どおりのテンポでさらにつづけようとしようものなら、われわれはおそらく敗北することだろう。なぜなら、思慮ある人にはだれにも明らかなように、プロレタリア的な記帳と統制とを組織するというわれわれの仕事が、**直接的な**「収奪者の収奪」という仕事から**たちおくら**れているからである。もしいまわれわれが記帳と統制とを組織するという仕事に全力をあげるならば、われわれはこの任務を解決できようし、われわれの手ぬかりをうめあわせ、資本にたいするわれわれの「戦役」全体に勝利するだろう。

しかし、手ぬかりをうめあわせなければならないと認めるのは、なにかあやまちをおかしていたとみとめるのと同じことではなかろうか？——けっしてそんなことはない。もういちど軍事との比較をやってみよう。もし軽騎兵部隊だけで敵をうちやぶり駆逐することができるのであれば、そうしなければならない。だが、それを首尾よくやりとげることができるのがある限界までのことにすぎないとすれば、その限界をこえると重砲隊をくりだす必要がでてくることは、十分考えられる。そこで、いま重砲隊をくりだすことでわれわれの手ぬかりをうめあわせなければならないと認めたところで、それによってわれわれは、勝利した騎兵隊の攻撃が誤っていた、と認めるわけではけっしてないのである。

ブルジョアジーの従僕は、われわれが資本に「赤衛軍」攻撃をくわえたといつて、しばしばわれわれを非難してきた。この非難はばかげたものであり、巾着の従僕にこそふさわしいものである。なぜなら、資本にたいする「赤衛軍」攻撃は、つぎの諸事情によって**その当時無条件に命ぜられたもの**だからである。すなわち、第一に、資本は、ケレンスキーやクラスノフ、サヴィンコフやゴーツ(ゲゲチコーリはいまなおこのように反抗している)、ドットフやボガエフスキーに代表されて、その当時、軍事的に反抗していたからである。軍事的反抗は、軍的手段によるほかにうちくたくすることができない。そこで赤衛軍は、勤労被搾取者を搾取者の圧制から解放するという、もっとも尊い、もっとも偉大な歴史的事業をやったのである。

第二に、当時われわれは、弾圧という方法のかわりに管理という方法を首位におくことはできなかった。なぜなら、管理の手腕は、人間が生まれながらにもっているものではなく、経験によってあたえられるものだからである。当時われわれはこのような経験をもたなかった。だがいまはそれがある。第三に、当時われわれは、知識や技術のいろいろな部門の専門家を自由につかうことができなかった。なぜなら、彼らは、ボガエフスキーの隊列にくわわってたたかっていたか、さもなければ、彼らはサボタージュによって、組織的で頑強な消極的反抗をすることがまだできたからである。だがいまは、われわれはサボタージュを粉碎してしまった。資本にたいする「赤衛軍」攻撃は成功し、勝利した。なぜなら、われわれは、資本の軍事的な反抗にもサボタージュによる反抗にも、うちかつたから

である。

このことは、資本にたいする「赤衛軍」攻撃が、いつでも時宜に適したものであり、どんな事情のもとでも時宜に適したものであるとか、資本にたいする闘争方法はわれわれにはそれ以外にないということを、意味するだろうか？ こんなふうにと考えるとしたら子供っぽいことであろう。われわれは軽騎兵隊で勝利したが、しかし重砲隊ももっている。われわれは弾圧の方法で勝利したが、われわれは管理という方法によっても勝利することができるのである。事情が変わるにつれて、敵にたいする闘争方法も変えることができるようではなければならない。われわれは、サヴィンコフやゲゲチコーリの諸氏にたいしては、またその他のあらゆる地主およびブルジョアの反革命家にたいしても、「赤衛軍」弾圧を一刻もやめないだろう。だが、赤衛軍攻撃を必要とする時代が大体におわった（しかも勝利をもっておわった）とき、またどんなブルジョアジーもちっとも育つことのできないように土壌をすきかえすのにプロレタリア国家権力がブルジョア専門家を利用するという時代が来ようとしているとき、なお「赤衛軍的」なやり方を首位におくほど、われわれは馬鹿ではないだろう。

これは発展の特異な一時代、もっと正確に言えば、一時期である。そして資本に徹底的にうちかつには、われわれは、このような時期の特殊な条件にわれわれの闘争形式を適応させることができなければならない。

知識、技術、経験の、いろいろな部門の専門家による指導がなくては、社会主義にうつることはできない。なぜなら、社会主義は、資本主義が達成したものを基礎に、資本主義よりいっそう高い労働生産性をめざす自覚ある大衆的前進を、要求するからである。社会主義は、**自分なりに**、自分のやり方で——もっと具体的に言えば、**ソヴェト的な**やり方で——この前進を実現しなければならない。ところが専門家は、彼らを専門家に仕たてたその社会生活のいっさいの事情のため、たいていブルジョア的である。もしわがプロレタリアートが、権力を獲得したのち、全人民的な規模での記帳と統制と組織の任務を、急速に解決していたならば——（このことは戦争とロシアの後進性とのために実現できなかったが）——、そのときはわれわれは、サボタージュを粉碎し、全般的な記帳と統制とによってブルジョア専門家をも完全に服従させていたであろう。しかし一般に記帳と統制とがいちじるしく「たちおくれた」ために、われわれは、サボタージュには首尾よくうちかつことができたとはいえ、ブルジョア専門家をわれわれが自由にあつかうような事態を、**まだ**作りだしていなかった。多くの怠業者が「勤めにでている」。しかし、国家がすぐれた組織者や大専門家を利用することができるのは、古いやり方、つまり、ブルジョア的なやり方（すなわち高給を支払うこと）によるか、あるいは新しいやり方、つまり、プロレタリア的なやり方（すなわち、専門家をいや応なくおのずから服従させ、引き寄せるような、下からの全人民的な記帳と統制という事態をつくりだすこと）によるのである。

いまやわれわれは、古いブルジョア的なやり方に訴えて、ブルジョア専門家のうちの大物の「サーヴィス」には非常な高給を支払うことに、同意しなければならなくなった。事情を知っている人なら、だれでもこのことはわかる。しかし、プロレタリア国家がこのようなやり方をするの意義については、だれもがふかく考えているわけではない。このようなやり方が、一つの妥協であり、パリ・コンミュン原則やあらゆるプロレタリア権力の原則からの後退であることは、明白である。この原則は、俸給を中位の労働者の賃

金水準に引下げること、そして出世主義にたいして口先でなく、実際に闘争することを要求しているのである。

そればかりでない。このようなやり方が、資本にたいする攻撃の中止——ある分野でのある程度の——であるばかりか（なぜなら、資本は一定額の貨幣ではなく、一定の社会関係であるから）、また、わが社会主義的ソヴェト国家権力の**一步後退**でもあることは、明白である。この国家権力は、そもそものはじめから、高い給料を中位の労働者の賃金に引き下げる政策を宣言し、これを実行してきたのであった。

もちろん、ブルジョアジーの従僕、とくにメンシェヴィキやノーヴァヤ・ジーズニ派、エス・エル右派のような小物は、われわれが一步後退したことを告白するのを見て、ほくそ笑むことだろう。けれどもわれわれは、そんなほくそ笑みに注意する必要はない。われわれは、われわれの誤りや弱点をかくさないで、まだやりおえていないことを適時にやりおえるように努力しながら、社会主義への最高度に困難な新しい道の特殊性を研究しなければならない。ブルジョア専門家を法外に高い給料で引き寄せることは、コンミュニンの原則からの後退である。このことを大衆にかくしておくならば、それはブルジョア政治屋の水準に墮落して、大衆を欺くことを意味しよう。どのように、またなぜ、われわれは一步後退したのかということをおおびらに説明し、それから、手ぬかりをうめあわせるためにどのような手段があるかを、公然と論議することは、大衆を教育し、経験にまなび、彼らとともに社会主義建設をまなぶことを意味する。歴史上の勝利した戦役で、勝利者がなんのあやまちもおかさず、部分的な敗北もせず、なにかで、どこかで、一時的に後退もしなかったというようなことは、ほとんど一つもない。だが資本主義にたいしてわれわれがやりはじめたこの「戦役」は、もっとも困難な戦役よりさらに百万倍も困難なのである。そこで、いくらかの部分的な後退で意気銷沈するようなことは、馬鹿げたことであり、恥ずかしいことであろう。

第 27 卷『ソヴェト権力の当面の任務』P243～252

1918 年 3～4 月に執筆

ポイント

ボリシェヴィキ党の第一の任務は、大多数の人民に自分の綱領や戦術の正しさを納得させることである。第二の任務は、政治権力を獲得して、搾取者の反抗を弾圧することであった。第三の任務は、現在の時機の特色をなす任務として、ロシアの管理を組織するという任務である。この任務は 1917 年 10 月 25 日のその翌日からわれわれが提起し解決してきたのであったが、しかし、搾取者の反抗がまだ公然たる内戦という形態をとっていたあいだは、主要な中心的な任務とはなりえなかった。

世界史上はじめて、社会主義政党は、権力の獲得と搾取者の弾圧という事業を、大体において完了することができ、管理という任務に直接とりかかることができるようになった。管理を首尾よくやっていくためには、説得する手腕のほかに、内戦に勝利する手腕のほかに、実践的に組織する手腕が必要である。これはもっとも困難な任務である。なぜなら、幾千万という人々の生活のもっとも深い経済的基礎を新しく組織するということが、問題なのだからである。これは、もっともやりがいのある任務である。この任務が解決されたのちにはじめて、ロシアはただソヴェト共和国になったというだけでなく、社会主義共和国になったともいうことができるからである。

『金銭勘定を正確に誠実にせよ、節約して経営をおこなえ、怠けるな、盗みをするな、

労働規律を厳重にまもれ』、ほかならぬこういうスローガンは、ブルジョアジーが打倒された現在では、現時機の当面の主要なスローガンとなりつつあるのである。これらのスローガンを実行することは、社会主義の最後の勝利にとって必要なことである。大衆の気分をまったく一変させて、彼らを正しい、根気づよい、規律ある労働にうつらせるためには、すぐれた、もっとも自覚ある労働者や農民の、長期にわたる不屈の努力が必要である。貧民大衆がこのような移行を実現してこそはじめて、ブルジョアジーにたいする勝利、とくにもっとも頑強で数多い農民ブルジョアジーにたいする勝利を、達成できるのである。

われわれは、資本家をさらに収奪するというもっとも単純な任務から、ブルジョアジーが存在することもできなければ、ふたたび発生することもできないような条件をつくりだすという、はるかに複雑で困難な任務にうつることが、日程にのぼっている。われわれは社会主義への移行をやっとはじめたばかりであり、この点で、決定的なことをまだなにも実現していない。決定的なことというのは、物資の生産と分配とのもっとも厳格な全人民的な記帳と統制とを組織することである。

資本にたいする戦争では、前進を停止してはならない。そしてわれわれが資本のこれ以上の収奪を断念するなどということは、まったく問題になりえない。問題は、われわれの経済的および政治的活動の重心を変えるということである。これまでは収奪者を直接に収奪する措置が首位にあった。ところがいまは、すでに資本家が収奪された経営で、そしてまたその他のすべての経営で、記帳と統制を組織することが、首位にあるようになったのである。赤衛軍攻撃を必要とする時代が大体におわった（しかも勝利をもっておわった）とき、またどんなブルジョアジーもちっとも育つことのできないように土壌をすきかえすのにプロレタリア国家権力がブルジョア専門家を利用するという時代が来ようとしているとき、なお「赤衛軍的」なやり方を首位におくほど、われわれは馬鹿ではないだろう。

知識、技術、経験の、いろいろな部門の専門家による指導がなくては、社会主義にうつることはできない。なぜなら、社会主義は、資本主義が達成したものを基礎に、資本主義よりいっそう高い労働生産性をめざす自覚ある大衆的前進を、要求するからである。ところが専門家は、彼らを専門家に仕たてたその社会生活のいっさいの事情のため、たいていブルジョア的である。

いまやわれわれは、古いブルジョア的なやり方に訴えて、ブルジョア専門家のうちの大物の「サーヴィス」には非常な高給を支払うことに、同意しなくならなくなった。プロレタリア国家がこのようなやり方をすることの意義については、だれもがふかく考えているわけではない。このようなやり方が、一つの妥協であり、パリ・コンミュンの原則やあらゆるプロレタリア権力の原則からの後退であることは、明白である。このようなやり方が、資本にたいする攻撃の中止であるばかりか、わが社会主義的ソヴェト国家権力の一步後退でもあることは、明白である。

ブルジョア専門家を法外に高い給料で引き寄せることは、コンミュンの原則からの後退である。このことを大衆にかくしておくならば、それはブルジョア政治屋の水準に墮落して、大衆を欺くことを意味しよう。どのように、またなぜ、われわれは一步後退したのかということをおおっぴらに説明し、それから、手ぬかりをうめあわせるためにどのような手段があるかを、公然と論議することは、大衆を教育し、経験にまなび、彼らとともに社会主義建設をまなぶことを意味する。